

追悼 梅棹忠夫先生

京都大学名誉教授・本会顧問
池上 惇

文化経済学事始

梅棹忠夫先生が逝かれた。1990年代の初め、私たちが文化経済学会を創設しようと走りまわっていた頃のことである。学会を創るには、この領域の先覚者に推進へのご同意を頂かねばならない。資生堂の福原義春先生に、まず、お願いした。

京都大学時代の先輩であった山田浩之教授からは、梅棹忠夫先生をご推薦いただいた。

『梅棹忠夫著作集』（中央公論社、別巻、総索引刊行日付は1994年）、第21巻、114ページには、「文化経済学会」と題して、つぎのような記述がある。

「文化と経済の関係ははなはだとらえにくいものである。経済的な基礎がなくては、文化的活動は、とうてい、なりたない。しかしながら、文化的活動は経済には寄与しないものと考えられている。……経済界では‘文化’を口にするのはタブーであった。経済学においても文化は経済外の現象として、まったくとりあつかわれていないのであった。」

日本でも、文化経済学会が1992年3月末に東京で発足したと、指摘されてから、つぎのように述べられている。

「私は山田浩之教授の誘いを受けて、その設立発起人のひとりとなった。」

「その前途におおいに期待を持っている。」（著作集、第21巻、114ページ）

先生は、文化資源の経済的価値は非常に大きなものであるとお考えであった。その事例としては、山田教授のご協力、国立民族学博物館の建設投資の経済的な効果について産業連関表を活用して詳細に研究された成果がある。1983年に公刊された、日本最初の『文化経済学事始』学陽書房、によれば、文化施設への建設投資は、道路投資の経済効果を上回る。先生は大規模な文化施設よ

りも、小規模で分散的なものが各地の固有の文化に根ざして発展する事を期待された。

いわば、都市や地域の経済に貢献する文化施設の発展である。著作集、21巻では、都市の



写真提供：国立民族学博物館

本質は産業ではなく、神殿、つまり、社会の理想像を文化的（かつては宗教的）なかたちをとって発信する空間であることが指摘されている。文化施設は、例えば、ハコモノではあっても、理想社会を象徴する、美的なものであるべきで、それが、各地にあって、ギリシャ時代の神殿のように、その地に固有の文化情報を発信し、都市発展の基盤となり、情報産業を起す。情報産業が創造的な文化的価値を生む。この文化的価値を媒介として、人々は道徳社会を構築し、これによって、農業や工業を制御しながら地域経済の発展を実現する。このように期待されていた。産業を制御する文化なくしては、人類の福祉も都市の発展もない。まさに革新的な思想である。農業であっても、文化的価値による制御なしには、自然破壊をもたらしかねない。先生は、日本の江戸時代は、このような制御が実現した時代と見ておられた。

残念ながらときの政府は、梅棹先生の「心の糧を齎す文化施設論」を悪用して、建設会社本位の建設を主導し、自治体に巨額の借金を残し、閉鎖などによって、地域経済の不況と公務員の削減に繋がる結果を招いた。深く反省すべきことであろう。

的確な文化資源の活用は、各地に永続的な経済的価値を齎す。この思想は、祭や地場産業などの再評価を通じ

て実証可能である。いまこそ、文化経済学会の総力を挙げて研究すべき課題でもあろうか。

文化経済学の新たな地平

先生は、生態学の研究から出発されて世界の砂漠地帯を現地調査され、限界状況に生きる生物の世界、その棲み分けや共生の構造を解明された。

その鋭い眼差しは、生態学から、文化人類学に発展し、人類の‘生の営み’と、その‘生きざま’にかかわる経済理論を開発されている。先生の文化人類学的経済学は、極限的な資源不足のもとで、最小のエネルギーで、生命と生活の最高の成果、創造的な成果をあげる人間の関係性、言語・コミュニケーションの特質、その各地における固有の質の解明であった。

家族から発して、地域の多様な‘つながり’や‘ひろがり’への冷静な観察と理論化は、各地に固有の‘営み’を相互に理解しうる共通語、エスペラント語を媒介として可能となる。この相互理解こそ、混沌と飛躍の中で、人々の道徳的関係性を生み出し、安定した福祉の秩序を生み出す。

この前人未踏の成果について、思想的系譜を辿れば、J. ラスキンや、W. モリス、ライオネル・ロビンス、W.G. ボウモル、A. クラマーらの学術的伝統に行き着くだろう。

とりわけ、14巻、「情報と文明」には、情報の文化的価値と、その社会的な評価に関する独創的な見解が示されている。ここでは、情報の文化的価値は、モノの生産と交換を前提とした契約社会のルールには馴染まず、「お布施」と呼べるような心のこもった‘営み’として再生される。それは、かつての高僧が人々に啓示したような「心の糧」なりうる貴重な文化的情報の提供と、それに対する享受人の‘感謝のしるし’である。

お布施の貨幣額は、ここでは、情報の発信者と享受者

をつなぐ文化的価値のシンボルとなる。人間による道徳社会の形成と、そのなかでのすみわけ、共生のシンボルとしての「格」の存在。これは、素晴らしい発見である。

この見解も、また、歴史に残る梅棹経済学の成果であろう。

私は、多くの師に恵まれたが、梅棹先生からは、直接に対面を願い出てご指導を受けていない。御著書を拝読し、拙い著作を送りし、礼状をいただき、ご講演に接し、文化政策・まちづくり大学院大学など、設立のご相談を書簡でお願いしていた。「経過と結果は報告するように」とのご示唆をいただきながら、私の不徳でいまだに実現しないままとなってしまった。力不足である。お詫びあるのみ。

いま、先生の不肖の後進として梅棹経済学の真髄を、さらに、研究し、国際学会誌に記憶させること、また、多くの推進者と共に、格の高い文化政策大学院大学を構築すること。そのために一層、努力することをご報告してお許しを頂きたい。合掌。

故 梅棹忠夫顧問の略年譜

1920(大正9年)	京都市生まれ
1943(昭和18年)	京都大学理学部卒業
1949(昭和24年)	大阪市立大学理工学部助教
1961(昭和36年)	理学博士
1965(昭和40年)	京都大学人文科学研究所助教授
1969(昭和44年)	京都大学人文科学研究所教授
1974(昭和49年)	国立民族学博物館初代館長
1983(昭和58年)	財団法人千里文化財団会長
1992(平成4年)	文化経済学会<日本>顧問
1993(平成5年)	国立民族学博物館顧問、同名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授
1996(平成8年)	京都大学名誉教授
2010(平成22年)7月3日	逝去90歳

2010年
11月6日
(土)

2010年度秋の講演会は、新潟県柏崎市で開催

文化経済学会<日本>2010年秋の講演会

「日本から世界へ：海外に広がる日本の食文化」

柏崎市は新潟県中越地方にある人口約8万人の市です。新潟といえば「水と空気が美味しく、お米とお酒ができる場所」です。すなわち食文化の豊かな地域です。そ

れは、新潟に暮らす私たちにとっての日々の豊かさであり、誇りでもあります。そしてそのような食文化の豊かさと、それを背景に、新潟の「お米、日本酒、そしてお

菓子作り」は、国際化のますます進むこれからの時代を前に、何をみつめ、どう活路を開こうとしているのか。そのような食文化の広がり、そこに息づく経済活動の

営み、想い、そして文化というものを、改めて認識する場になればと思います。

プログラム

14:00～14:05	開会挨拶 広川俊男(新潟産業大学 学長)
14:05～14:10	講演者紹介ならびに討論の司会者紹介

第1部 新潟の米、そして酒

14:10～14:30	講演1 「新潟米の中国輸出の取り組み」 藤巻伸一(新潟県農林水産部食品・流通課)
14:30～14:50	講演2 「日本酒の輸出の現状と今後の取り組み」 遠藤好一(朝日酒造㈱営業部)
14:50～15:05	小討論(パネルディスカッション) 司会 澤村 明(新潟大学准教授)

第2部 食文化の行き来と海外への視座

15:10～15:30	講演3 「冷麺——日本に広まった、北朝鮮生まれの料理」 蓮池 薫(新潟産業大学 専任講師)
15:30～15:50	講演4 「ブルボンの菓子作りと海外展開、食文化について」 片桐民生(㈱ブルボン国際企画部)
15:50～16:20	小討論および全体的な討論(パネルディスカッション)
16:30～17:30	「綾子舞」(国指定重要無形民俗文化財)公演

*途中、17:10 発路線バスをご利用される方のための小休憩あり

17:10	新潟産業大学発 柏崎駅行き路線バス 最終便 (大阪まで当日に帰られる方はこのバスをご利用下さい)
17:30～18:30	理事会 (一般会員の方は土産物および書籍購入等)
18:40	チャーターバス (柏崎駅には19:00頃到着)
19:11	名古屋まで当日に帰られる方: 柏崎発JR最終列車
19:52	東京まで当日に帰られる方: 柏崎発JR最終列車

■場所 新潟産業大学 A21 教室/講堂

■参加費 一般 1,000 円、学生 500 円(当日受付でお支払いください)

■懇親会 19:00～20:30 レストラン「サンブン」(柏崎駅より約5分、柏崎市産業文化会館内)

■参加費 一般 5,000 円、学生 2,500 円(当日受付でお支払いください)

■エクスカーション

11月7日(日) 原酒造(株)(柏崎市内の日本酒醸造元)見学

11月7日(日) 荻の島地区(萱葺き屋根の古民家の並ぶ集落)等見学

講演会参加申込方法

❖電子メールでのお申込み

事前に以下の情報をそえて電子メールにてお申込ください。

- ①参加者氏名 ②連絡先(住所、電話番号)
- ③懇親会参加の有無 ④その他連絡事項

❖FAX・郵送でのお申込み

同封の申込フォームに記載の上、お送りください。

申込先:新潟産業大学 江口研究室

〒945-1393 新潟県柏崎市軽井川 4730

e-mail: eguchi@econ.nsu.ac.jp

FAX: 0257-22-1300 (新潟産業大学)

エクスカーションのお知らせ

江口 潜 (新潟産業大学経済学部准教授)



原酒造(株) 酒蔵見学

■日時 11月7日(日) 10:00 現地集合

* 11:00 過ぎ頃終了

■場所 原酒造(株) (柏崎駅より徒歩7~8分)

■参加費 無料

■参加定員 なし

エクスカーションAコースでは柏崎の誇る酒蔵の一つである原酒造(株)の酒蔵を見学します。原酒造は柏崎市内にある4つの酒蔵の中で最も大きな酒蔵で、「越の誉」というブランドの日本酒が有名です。

また原酒造は、先の中越沖地震の際、壊滅的な被害を受け、連日、テレビのニュース等でもその様子が報道されました。

文化経済学会<日本>の会員の皆様には、柏崎の代表的な酒蔵である原酒造を訪問してみたいと、願っております。



荻の島(かやぶき屋根の古民家の並ぶ集落) & 越後妻有交流館「キナーレ」見学

■日時 11月7日(日) 9:30~15:00頃

(柏崎駅より大学のバスにより移動)

■場所 新潟県柏崎市高柳地区

(柏崎中心街より車で1時間)

■参加費 キナーレへの入館料(300円)等がかかります。

■参加定員 28名(先着順)

柏崎市高柳地区にある、かやぶき屋根の古民家が暮らしの中で今も「現役」として並んでいることで有名な「荻の島」という地区を訪れます。この地域は、柏崎駅

から自動車ですら1時間程かかる地域であり、新潟県に旅行に来て実際に訪れる機会はなかなか得られません。この機会に、是非「かやぶき屋根」の古民家の並ぶ集落を訪れられてはいかがでしょうか。

なお、「荻の島」地区を見学した後、バスは十日町市にある越後妻有交流館「キナーレ」に向かい、そこからJR「ほくほく線」の発着する「十日町駅」および上越新幹線「浦佐駅」までお送りします。なお詳しい旅程と時間は「エクスカーション申し込みフォーム(別紙)」に記載されていますので、ご確認ください。

エクスカーション参加申込方法

❖電子メールでのお申込み

講演会へのご参加申し込み時に、「Aコース」または「Bコース」のいずれにご参加を希望されるか、明記して下さい。

❖FAX・郵送でのお申込み

講演会への申し込み時に、同封のエクスカーション申込フォームに記載の上、お送りください。

※Bコース(先着順)に申し込まれた方には、申し込みが受理されたかどうかは、こちらよりご連絡をさせていただきます。

申込先:新潟産業大学 江口研究室

〒945-1393 新潟県柏崎市軽井川 4730

e-mail: eguchi@econ.nsu.ac.jp

FAX: 0257-22-1300 (新潟産業大学)

■お問合せ 上記電子メールまたは、
電話 0257-24-8497 (研究室直通)

新潟産業大学 アクセスと宿泊場所

■ JR 信越線 柏崎駅南口から路線バスでおよそ 20 分

●路線バス（土曜日のダイヤ）

柏崎駅南口発	新潟産業大学着	新潟産業大学発	柏崎駅南口着
11:45	12:06	16:35	16:56
12:20	12:40	17:10	17:33
13:20	13:41		
14:25	14:46		

* 講演会終了後、柏崎駅行きバスを運行します。

●新潟産業大学・柏崎駅周辺宿泊場所

	宿泊施設名	柏崎駅から	電話番号
①	ホテルニューグリーン柏崎	徒歩 1 分	0257-24-1111
②	ホテルアルファーワン柏崎	徒歩 1 分	0257-24-0022
③	ホテルサンシャイン（柏崎）	徒歩 1 分	0257-23-1211
④	ホテルルートインコート柏崎	車で 10 分	0257-21-0005

* 宿泊場所の手配は個人でお願いします。



NEWS for Cultural Economics

2012 年度秋の講演会 開催地公募のご案内

現在、文化経済学会<日本>では上記事業の開催地を公募しております。皆様の積極的なご応募を期待します。

■ 応募方法 「(1)応募申込用紙」「(2)応募企画書」の 2 点をお送り下さい。各応募用紙の内容については下部参照のこと（形式は問わず）。書式の見本は

< <http://www.jace.gr.jp> >

こちらからダウンロードできます。

■ 応募資格 会員であること

■ 応募〆切 2010 年 10 月 28 日(木) 必着

■ 送付先 info@jace.gr.jp もしくは

〒160-8374 東京都新宿区西新宿 6-12-30

芸能花伝舎 2F (社)芸団協内

文化経済学会<日本>事務局 宛

❖開催地および担当理事の担務

研究大会もしくは秋の講演会の運営にかかる全般（パネリストなどへの交渉、会場設営、受付・分科会など準備と対応、アルバイトなどの人手の確保など、必要な場合には助成金の申請など）

事務局は基本的に会員向けの広報、参加申込の集約、会場設営などについての助言、当日受付のサポート、予算内の会計の精算を担当します。

❖応募に必要な書類 2 点の内容

(1) 応募申込用紙

- 1) 応募者氏名、所属、会員番号、連絡先住所、電話番号（開催の責任を引き受けられる会員であること）
- 2) 担当理事候補者名（あらかじめ理事の協力が得られる場合はその氏名を記入。無い場合は空欄で良い）
- 3) 開催候補場所名（大学、文化施設など、会場となる場所の名前）、所在地（住所、電話番号）

※懇親会会場が別の場合は、その会場名、所在地

(2) 応募企画書

形式は問いませんが、もれなくご記入下さい。

■秋の講演会

①秋の講演会 テーマ案	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるテーマを期待する。 ・ただし、採用後、理事会等の協議により変更が加えられる可能性がある。
②会場の概要 (注1)	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある会場を期待する。 ① 講演会が開催できる 100 人程度収容可能な集会室 1 室 ② 理事会を同時開催するので、理事 30 名程度が会議できる部屋 1 室 ・会場までの交通
③大会実施 体制	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者を中心に講演会を遂行するのに必要な実施体制を提案する。
④開催にあつ ての抱負	<ul style="list-style-type: none"> ・いかに魅力的な事業を提案できるか、その優位性、オリジナリティなどの提案を期待する。

(注1) 候補会場の状況をご記入ください。あるいは、会場地図に収容人数・用途など（後援会・理事会・懇親会・プロジェクター・スクリーンの有無など）を明記して、添付してください。

■参考資料 過去の<研究大会/秋の講演会>会場一覧

●研究大会

2002	秋田県	たざわこ芸術村
2003	静岡県	静岡文化芸術大学
2004	埼玉県	跡見学園女子大学
2005	鳥取県	米子コンベンションセンター
2006	福岡県	久留米大学
2007	埼玉県	埼玉大学
2008	北海道	北海道大学
2009	岐阜県	可児市文化創造センター
2010	兵庫県	兵庫県立大学
2011	愛知県	名古屋大学
2012	京都府	同志社大学他

●秋の講演会

2002	京都府	京都市国際交流会館
2003	兵庫県	神戸研究学園都市大学交流センター
2004	石川県	金沢21世紀美術館
2005	東京都	芸能花伝舎
2006	高知県	コンデンブラザ
2007	富山県	瑞龍寺
2008	宮城県	せんだいメディアテーク、東北大学
2009	静岡県	静岡文化芸術大学
2010	新潟県	新潟産業大学（今秋開催予定）
2011	東京都	青山学院大学他
2012		公募

文化経済学会<日本>第X期新役員が決定

文化経済学会<日本>第X期（2010-2011年度）の新役員が決まりました。4月2日に開催された第IX期第8回理事会において、先に行われた役員選挙の結果を踏まえ、新役員が別表のとおりになりました。また、7月3日の第X期第1回理事会において、河島伸子理事が理事長に選出されました。（'10年7月3日理事会承認）

■文化経済学会<日本>第X期（2010-2011年度）新役員

会長	後藤和子	埼玉大学
副会長	清水裕之	名古屋大学
理事長	河島伸子	同志社大学
個人理事	有馬昌宏	兵庫県立大学
	井口典夫	青山学院大学
	井口 貢	同志社大学
	伊藤裕夫	富山大学
	衛 紀生	可児市文化創造センター
	小野田泰明	東北大学

個人理事	片山泰輔	静岡文化芸術大学
	勝浦正樹	名城大学
	加藤種男	アサヒビール芸術文化財団
	川崎賢一	駒沢大学
	北村裕明	滋賀大学
	草加叔也	(有)空間創造研究所
	小林真理	東京大学
	阪本 崇	京都橘大学
	佐々木晃彦	九州共立大学
	佐々木 亨	北海道大学
	佐々木雅幸	大阪市立大学
	澤村 明	新潟大学
	鈴木泥二郎	静岡文化芸術大学
	徳永高志	(特活)アートNPO カコア
	友岡邦之	高崎経済大学
	永井多恵子	文教ジャーナリスト
	中川幾郎	帝塚山大学
	中谷武雄	京都橘大学
	野田邦弘	鳥取大学
	端 信行	兵庫県立歴史博物館
藤野一夫	神戸大学	
藤原惠洋	九州大学	
増淵敏之	法政大学	
松本茂章	高知県立高知女子大学	
美山良夫	慶應義塾大学	
八木 匡	同志社大学	
山田太門	(一般社団法人)公共経済学研究所	
大和 滋	(社)日本芸能実演家団体協議会	
吉本光宏	(株)ニッセイ基礎研究所	
若松美黄	日本女子体育大学	
個人監事	吉田和男	京都大学
団体理事	(株)資生堂	
	(社)日本芸能実演家団体協議会	
	(社)文化科学研究所	
団体監事	(社)企業メセナ協議会	
顧問	池上 惇	京都大学名誉教授
	梅棹忠夫 ^(※)	国立民族学博物館
	倉林義正	一橋大学名誉教授
	中村隆英	東京大学名誉教授
	永山貞則	(財)日本統計協会
	福原義春	(社)企業メセナ協議会
	松田芳郎	青森公立大学教授
山田浩之	京都大学名誉教授	

※勤務先名称などは2010年6月23日現在のものです。

※梅棹忠夫先生は2010年7月3日にご逝去されました。心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

決算報告

神戸大会で開催された総会で、2009年度収支決算および2010年度収支予算が承認されました。(2010年7月4日)

■文化経済学会<日本>2009年度収支決算書 (2009.4.1-2010.3.31)

<収入>	予算額	決算額
会費収入	6,800,000	5,210,000
個人会費	6,300,000	4,710,000
団体会費	500,000	500,000
研究事業収入	1,000,000	985,950
大会参加費など	1,000,000	985,950
助成金	0	0
普及事業収入	1,500,000	1,019,320
講演会参加費など	100,000	143,000
出版物収入	100,000	0
学会誌収入	1,300,000	876,320
雑収入	10,000	2,027
事業調整積立金取崩	0	320,082
当期収入合計	9,310,000	7,537,379
前期繰越金	979,942	979,942
収入合計	10,289,942	8,517,321

<支出>	予算額	決算額
研究事業費	4,800,000	3,842,498
研究大会	1,300,000	1,262,370
論文集	3,000,000	1,911,000
編集費	300,000	290,370
送料	200,000	378,758
普及事業費	300,000	261,139
講演会	300,000	261,139
広報費	1,200,000	935,508
ニュース	500,000	480,900
編集費	250,000	252,000
インターネット	150,000	137,444
送料	300,000	65,164
学会運営費	3,760,000	3,478,176
理事会	100,000	141,402
理事会交通費補助	900,000	686,760
20周年記念事業準備費	100,000	25,807
名簿	350,000	157,794
事務委託	360,000	538,113
臨時雇賃金	1,600,000	1,694,710
通信費	150,000	128,823
消耗品費	150,000	67,898
雑費	50,000	36,869
予備費	29,942	0
事業調整積立金繰入	200,000	0
当期支出合計	10,289,942	8,517,321
当期収支差額	- 979,942	- 979,942
次期繰越収支差額	0	0
合計	10,289,942	8,517,321

■貸借対照表 (2010.3.31)

資産の部	負債及び正味財産の部	
	2008	2009
現金	123,306	135,843
銀行普通預金	1,424,231	378,713
銀行定期預金	2,516,476	2,530,309
郵便振替口座	440,100	76,880
未収入金	540,000	378,000
合計	5,044,113	3,499,745

負債及び正味財産の部	負債及び正味財産の部	
	2008	2009
負債 未払金	1,739,557	1,480,934
前受金	0	0
預り金	0	0
借入金	0	0
正味財産	3,304,556	2,018,811
合計	5,044,113	3,499,745

■文化経済学会<日本>2010年度収支予算書

<収入>	2009予算額	2010予算額
会費収入	6,800,000	7,770,000
個人会費	6,300,000	7,270,000
団体会費	500,000	500,000
研究事業収入	1,000,000	1,000,000
大会参加費など	1,000,000	1,000,000
助成金	0	0
普及事業収入	1,500,000	1,150,000
講演会参加費など	100,000	100,000
出版物収入	100,000	50,000
学会誌収入	1,300,000	1,000,000
雑収入	10,000	10,000
事業調整積立金取崩	0	0
当期収入合計	9,310,000	9,930,000
前期繰越金	979,942	0
収入合計	10,289,942	9,930,000

<支出>	2009予算額	2010予算額
研究事業費	4,800,000	4,300,000
研究大会	1,300,000	1,300,000
論文集	3,000,000	2,500,000
編集費	300,000	300,000
送料	200,000	200,000
普及事業費	300,000	300,000
講演会	300,000	300,000
広報費	1,200,000	1,130,000
ニュース	500,000	480,000
編集費	250,000	250,000
インターネット	150,000	200,000
送料	300,000	200,000
学会運営費	3,760,000	3,810,000
理事会	100,000	100,000
理事会交通費補助	900,000	700,000
20周年記念事業準備費	100,000	0
名簿	350,000	550,000
事務委託	360,000	360,000
臨時雇賃金	1,600,000	1,800,000
通信費	150,000	150,000
消耗品費	150,000	100,000
雑費	50,000	50,000
予備費	29,942	40,000
事業調整積立金繰入	200,000	350,000
当期支出合計	10,289,942	9,930,000
当期収支差額	- 979,942	0
次期繰越収支差額	0	0
合計	10,289,942	9,930,000

■20周年記念事業概算予算書

1. <収入>	
文化経済学会<日本>自己資金	1,500,000
参加費(国際学会)	4,500,000
同志社大学	400,000
収益金①(公開シンポジウム参加費)	4,100,000
収益金②(広告費)	
収益金③(寄付金)	
収益金④(助成金)	
小計(1)	10,500,000

2. <支出>	
国際文化経済学会	8,100,000
国内企画関連事業	1,000,000
20周年記念出版費	1,000,000
予備費	400,000
小計(2)	10,500,000

3. <収支>	
小計(1) - (2)	0

INFORMATION

●学会誌「文化経済学」編集委員会より

「文化経済学」は、年2回発行され、年2回の区切りで投稿論文を受け付けています。

		第8巻2号 (通巻31号)	第9巻1号 (通巻32号)
締切	論文エントリー	2011年1月末	2011年7月末
	論文提出	2011年3月末	2011年9月末

<応募&掲載条件> 本学会員に限られます。掲載には、査読委員の審査を経て掲載が妥当と認められること、掲載料をお支払いいただくことが条件となっています。(2ページ毎に6,000円、ただし、50部の抜き刷りを配布いたします)

<応募方法> FAX、e-mail、郵送のいずれかで、右記7点を事務局までお送りください。

- ①応募日付 ②応募者名 ③会員番号 ④所属 ⑤タイトル
⑥論文要旨(400字程度) ⑦応募者連絡先

<応募にあたっての留意事項>

- ・過去の研究への言及と、従来の研究の流れの中での自己の研究の位置づけ、または独自性が明確になっていること。
- ・論証や実証に必要な文献・資料の参照が行われていること。
- ・歴史的事実等については、事実が正確であるかどうかの確認を行っていること。
- ・応募する論文は未公表のものであること、また、他の学術誌等への投稿の予定がないものに限る。
- ・提出方法・原稿の形式などの詳細は、文化経済学会ウェブサイトをご参照ください。

<http://www.jace.gr.jp/bosyu.html>



会費納入のお願い

2010年度年会費の入金がお済みでない会員の方はお振込みをお願いいたします。

2010年度年会費 10,000円

口座名義 文化経済学会<日本> ブンカケイザイガクカイニホン

口座番号 郵便振替口座 00150-6-606423

ゆうちょ銀行 019 (ゼロイチキョウ) 店 当座 0606423

みずほ銀行 新宿新都心支店 普通 1424794

※ご都合の良い方法でお振込み下さい

※退会をご希望の場合、「退会届」をFAX・郵送・E-mailにてご提出下さい。
会費をお支払にならないだけでは退会の扱いとはなりませんのでご注意ください。
理事会での承認を経て、正式に退会となります。

退会届 ①氏名 ②会員番号 ③所属 ④連絡先 ⑤退会理由

理事会報告

第Ⅹ期第1回理事会

2010年7月3日(土) 12:30～13:30 於)兵庫県立大学 教育棟 1-107 教室 出席 24名、委任状7通、事務局1名

<第1号議案>会員の入退会について

入会 16名 了承

退会 11名 了承

退会保留 1名

<第2号議案>理事会の構成と理事長の選出

▶理事会の構成

・前回の理事会で承認された理事構成が確認された。

▶理事長の選出

・会長の後藤和子氏の指名で、同志社大学教授の河島伸子氏が全会一致で理事長に選出された。

<第3号議案>2009年度事業報告/2010年度事業計画・予算(案)について

・別添資料「2009年度事業報告/2010年度事業計画・予算(案)」をもとに報告がなされた。河島理事長から、昨年度の会費徴収が159万円分滞っており、大幅な赤字となったこと、現在督促中であり過年度分の回収作業が進行中であることが説明された。また、全体に財政状況にゆとりがないため、今後、年4回発行されるニューズレターの電子化(発行については会員にメールで通知)を検討する必要があることが説明された。

<第4号議案> 役員の担務について

役員の担務について検討され、次のとおり決定した。

担 務	X期担当理事名
研究大会	2011年度…清水裕之 2012年度…中谷武雄
秋の講演会	2011年度…井口典夫・増淵敏之 2012年度…未定
学会誌編集委員会	勝浦正樹(編集長)・友岡邦之(主幹)
広報・ニューズレター ※4名で 各1号×2ヶ年担当	徳永高志・佐々木 亨・美山良夫・ 吉本光宏
インターネット	澤村 明
国際学会対応	後藤和子・河島伸子
学術会議	山田太門
総 務	片山泰輔・大和 滋

<第5号議案> 2010年度秋の講演会について

新潟産業大学より代表者の出席がなかったため、説明資料を配布し、事務局より準備の進捗状況について補足説明があった。

<第6号議案> 20周年記念事業について

- ・草加理事(20周年記念事業事務局長)より、国際交流基金の「特定寄付金制度」に申請することにより会員等の個人、あるいは法人からの記念事業に対する寄付金の税制上優遇措置が受けられるというメリットがあること、10月1日の正式申請を目標として準備を進めているという説明があった。
- ・野田理事から、国際交流基金にとって、この制度のメリットはどこにあるのか、参考までに知りたいという質問があった。これに対しては、後藤会長、草加理事等より、国際交流基金において自らの出費はなしに、事業規模が拡大すること自体に大きな意義があるからではないか、という返答があった。
- ・国際交流基金からは、京都での国際学会に関しても助成金を受けたいため、今後、三年間の事業計画をもち、2011年度にはアジア・ワークショップを開き、2012年の本大会、2013年のワークショップへ、と連続性のある事業計画をもって申請していくという報告が河島理事長からあった。このアジア・ワークショップ企画は、ACEIのザノーラ会長からの依頼でもあり、当学会としても積極的に取り組むべき事業であることが説明され、了承された。

<第7号議案> 横断型基幹科学技術研究団体連合への加盟について

- ・本件については審議の時間がなく、次回に持ち越された。
- ・山田太門理事より、日本経済学会連合への加盟を検討して欲しいという要望があり、これについて取り組むことが了承された。

その他

- ▶ 2011年度研究大会(名古屋大会)
清水副会長から概要説明があった。
- ▶ 22年度科研費審査結果報告(学会誌)
採択されなかったが、次年度以降も申請は続けていくことが大和総務担当理事から報告された。
- ▶ 顧問の退任、就任について
三善晃氏(作曲家)が健康上の理由により、辞任された旨、今期より顧問に新たに松田芳郎氏(青森公立大学)が就任された旨の報告があった。

入退会情報(敬称略)

◎第X期第1回理事会(2010.7.3)にて承認

- 入会** 青木恵之祐(三井不動産(株)S&E総合研究所主任研究員) / 池津 紫 / 歌川光一(東京大学大学院) / 梅澤 精(新潟産業大学経済学部教授) / 金 美林(慶應義塾大学メディアコミュニケーション研究所研究員) / 木村雄一(埼玉大学教育学部准教授) / 久木元 拓(首都大学東京システムデザイン学部准教授) / 畔柳千尋(養寿寺 文化・広報部) / 関口駿輔(法政大学大学院経済学研究科博士後期課程) / 仲村敏隆(事業創造大学院大学教務課) / 服部一史((株)電通 京都営業局長) / 日置一勝((財)神戸市民文化振興財団事業部(神戸文化ホール)) / 堀口讓司((株)竹中工務店 設計部部長) / 前田百恵(かすがい市民文化財団) / 正木 桂(中京法律専門学校専任講師) / 鷲尾裕子(松蔭大学観光文化学部専任講師)
- 退会** 須田 稔 / 吉原龍介 / 酒井ゆき / 金川幸司 / 池谷成典 / 山本 桂 / 上田香奈 / 仲野優子 / 丹下甲一 / 木下 孝 / 蒲池卓巳

ご寄贈ありがとうございました。

「ワーク・ライフ・バランスと日本人の生活行動」永山貞則・勝浦正樹・衛藤英達著、(財)日本統計協会、2010年4月<著者寄贈>

季刊「文化経済学会」No.74

2010年10月4日発行
ISSN 0918-3787

発行 文化経済学会(日本)

発行人 後藤和子

編集人 河島伸子

〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30

芸能花伝舎2F (社)芸団協内

電話 03-5909-3068 FAX 03-5909-3061

E-mail: info@jace.gr.jp

URL: http://www.jace.gr.jp/

©2010. Japan Association for Cultural Economics